

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大学全体

建学の精神「自由、愛、正義」及び本学の教育研究の目的の下、豊かな人間性を備え、現代的課題への対応能力、問題解決能力を持ち、以下の資質・能力を有する者に次の学位を授与する。

- ・ 学士
専門分野における学術の理論と応用を修得し、知的道徳的に円満な教養を有する者
- ・ 修士
専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する者
- ・ 博士
専攻分野における研究者・技術者・高度専門職業人として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力、柔軟な応用能力及びその基礎となる豊かな学識を有する者

工学部 学士（工学）

学士（工学）には、教育のモットー「創造と人間性」の下に培われた幅広い教養と応用能力を礎とし、「ものづくり」に必要とされる基礎知識と応用技術を各専門分野で確実に修得し、変革の激しい国内外の技術革新にも十分適応できる、高度な専門技術者として、以下の資質・能力を求める。

1. 人文・社会科学や語学等を通じて基礎知識を吸収、発展させ、問題を探求・解決する能力
2. 何事にも興味を抱き、問題に対し自ら挑戦し、理論と応用技術を広く深く習得のうえ堅実に実践する能力
3. 強い使命感と責任感、正しい倫理観を持ち、社会の一員として自らの的確に打ち出し、他と協働する能力

<電気学科>

電気・電子情報工学は、様々な産業分野の発展を支えている現代社会に不可欠の技術である。電気学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、専門分野の知識と技能を習得し、それらを活かすことができる以下の資質・能力を身につけた者に学位を授与する。

1. 電気・電子情報技術者に必要な基礎学力
2. 電気・電子情報工学の専門基礎知識
3. エネルギー・電力、情報通信、計測制御、物性・材料の何れかの分野の専門的な知識
4. 外国語によるコミュニケーション基礎力
5. 豊かな人間性を育む倫理観と教養
6. グローバル社会におけるキャリア意識

<応用化学科>

応用化学は、新しい物質を作り出すことで産業を支え、環境・エネルギー・資源問題や安全で安心な生活にも貢献している。応用化学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の資質・能力を身につけた者に学位を授与する。

1. 応用化学の専門知識を理解する際に必要な自然科学系基礎学力・知識
2. 応用化学の幅広い専門基礎知識
3. 材料物質や生命現象を原子分子レベルで理解し、応用化学の理論や技術を学ぶための専門的な知識
4. 化学技術者として活躍するために不可欠なリーダーシップと協調性、提案する力と解決する力の修得
5. 幅広い教養と豊かな人間性および正しい倫理観に基づくキャリア意識
6. グローバル化した社会に臨む化学技術者に必要な基礎的語学力

<機械学科>

機械工学は、現代社会を支える幅広い技術にかかわる工学の基礎分野である。特に本学が位置する中部圏は自動車・航空機・工作機械分野をはじめとする、わが国の「ものづくり」の中核をなしている。機械学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の知識や素養、能力等を身につけた者に学位を授与する。

1. 機械工学に関する幅広い専門基礎知識と素養
2. 機械技術に関する高度な専門知識と素養
3. 機械工学分野における実践的な技術力および応用力
4. 未来志向の先端分野に関する科学・技術の知識と素養
5. 社会に貢献する機械技術者としてのキャリア意識、倫理観
6. 機械工学に必要な自然科学の知識と素養
7. 国際的に活躍できる幅広い教養と豊かな人間性

<社会基盤学科>

近年、我が国は社会基盤整備を目標とした時代から、人間と自然との調和、資源の有効利用、高度な情報技術の導入など持続可能な社会を構築する時代へと移行している。このような社会背景に柔軟に対応することができ、課題の発見及び解決の道筋をつけ、官公庁・民間を問わず、企画・設計・施工に関わる各種実務の遂行において中心的役割を果たす技術者の育成が必要である。

本学科では、社会のニーズを常に意識し、様々な視点から問題解決に立ち向かうことができる、自律の心を備えた中堅実務技術者の育成を教育目標とする。また、本学の建学の精神である「自由・愛・正義」を基調として、本学科の教育プログラムでは「人格の向上」「専門知識の養成」「応用能力の育成」の3本の柱を教育理念の中心に据える。

1. 人類の幸福・福祉を日々追求し、技術と自然との関わりに深い関心を持ち、愛と正義の下に技術者としての社会的な貢献や責任を志向する能力
2. 防災、環境・生態系、造形や情報技術等のソフト面の知識を含め、土木工学に関する幅広い専門知識を養成し、かつ実践的な応用能力
3. 自由な発想と創造力の下で真理を探究し、論理的思考に基づいて自己の主張を提示し、他の技術者と連携を図りながら問題を解決する能力

以上の本学科の教育理念を踏まえ、以下の能力及び資質を身に付け、卒業要件を満たした者に学位を授与する。

1. 公共施設の企画・設計・建設に携わる土木技術者として、ボランティア活動の精神や地域の風土・歴史を理解し、かつ国際的な視点に立って社会貢献を思考する資質
2. 地球規模の環境・資源・防災問題を踏まえて、社会や自然に及ぼす技術の影響や効果を十分理解し、技術者としての社会的責任や倫理観
3. 数学・自然科学等の基礎知識に基づいて、土木技術者に必要とされる幅広い専門領域を横断的に学習し、実験・実習でその応用能力
4. 環境問題等に深い理解と知識を有し、かつ最新の情報技術に基づいて、情報を的確に収集・整理・活用する能力
5. 豊かな創造力に基づいて専門知識を実務に応用し、多方面の技術者と連携を図りながら社会のニーズや技術の進歩に沿って問題を解決し、具体的な形に仕上げる能力
6. 論文・報告書等を論理的に記述・発表し、自己と相手の主張の相反・合致点を見出しながら討議・調整し、まとめ上げる能力
7. 社会や時代の変化に対応できるよう、常に最新の技術・情報に目を向けて知識を吸収し、継続的・自主的に学習できる能力

<建築学科>

建築学は、人類創生の頃から続いている技術であり、芸術に関わる学術分野である「形態や空間の美しさ」と同時に、「利便性や快適性」、「安全性や耐久性」が要求され、地震・台風その他の外力に対しても安全で、都市や地域において持続可能でかつ実用的なものであることが望まれる。建築学科では、学部ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の資質を身につけた者に学位を授与する。

1. 基礎的な知識と素養、何事にも主体的に学ぶ姿勢
2. 建築に関する専門的な理論と総合的で高い応用技術
3. 建築技術者としての強い使命感と責任感、正しい倫理観
4. 自己の表現力、他との協働を尊重できるコミュニケーション能力
5. 人と地球環境にやさしい社会づくりのための先端技術と実践力

経営学部 学士（経営学）

<経営学科>

建学の精神「自由、愛、正義」の下、教育のモットー「創造と人間性」を発揮する幅広い教養を持ち、グローバル対応を迫られる地域産業や国際社会に貢献する人材を育成することを目指し、以下に示した基準を満たす学生に学位を授与する。

1. 社会に対して豊かな幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
2. 日本人だけでなく外国人にも表現力とコミュニケーション力を発揮し、協働できる。
3. 論理的に状況を分析し、問題解決へ向けて主体的に対応することができる。
4. 経営者育成、ものづくり、経理・会計、企画・営業サービス、IT、スポーツビジネスのいずれかを得意分野とし、企業をはじめとする組織を運営する専門知識を備えている。

情報科学部 学士（情報科学）

<情報科学科>

現代社会は、情報を扱うシステムを不可欠なものとする「情報化社会」となっている。そうした社会を持続可能な形で構築・維持するために、情報・コンピュータ・メディアに関する基礎知識を備え、システム設計や安全性確保のための技術・技能を持ち、さらには、エンタテインメント分野を含むさまざまな適用先に情報技術を応用できる技術者が求められる。学士（情報科学）には、教育のモットー「創造と人間性」の下に培われた幅広い教養を礎に情報科学の基礎知識・技術・技能を修得し、社会に役立てることのできる高度な専門技術者として、以下の能力・資質を求める。

1. 人間科学や社会科学に関する深い教養を持ち、日常に潜む課題を明らかにする能力
2. 自然科学の知識を備え、論理的・科学的に考える能力
3. 情報科学の基礎的・専門的な知識を備え、技術の適用先を検討する能力
4. コンピュータシステム分野の技術（システム開発手法など）やメディア情報分野の技術（コンテンツ制作手法など）を、産業および社会が求める高度な課題に対して実践的に応用する能力
5. 国際的な情報発信を行い、また世界中の技術者やクリエイターと協力するための語学力
6. 技術者としての将来のキャリアを見つめ考える能力

工学研究科 修士（工学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得して、修士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つ者に修士の学位を授与する。

1. 自らの専攻分野に強い関心と興味を持ち、積極的に取り組む姿勢が備わっていること。
2. 専門知識、研究成果等を社会に還元することができるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力が十分備わっていること。
3. 基礎の理解力に根ざした応用力、問題解決能力が備わっていること。

4. 諸問題の解決のために、協調性と高い倫理観をもって自ら行動することができること。

<電気電子工学専攻>

確かな分析能力と問題解決能力に基づく研究能力を有し、電気電子工学について独創性豊かで幅広い専門知識を身につけた高度専門技術者の育成を目標とし、博士前期課程を通じて、以下の項目を修得し、学位論文の審査に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 電気エネルギー工学、情報通信システム工学、材料・デバイス工学、もしくは電子システム工学に関する研究を通じ同分野での深い専門知識を得るとともに、実際の課題にそれを適切に活用できる。
2. 社会に貢献するエンジニアとしての技術倫理観、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持つ。

<材料化学専攻>

確かな分析能力と問題解決能力に基づく研究能力を有し、材料化学において、先端材料の開発及び応用、高度な専門知識と実践的な技術を身につけた専門家の育成を目標とする。博士前期課程を通じて、以下の項目を修得し、学位論文の審査に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 材料化学に関する高度な専門知識を有し、実際の問題及び課題において適切に活用できる。
2. エネルギー材料化学、無機材料化学、有機材料化学、バイオ材料設計・合成化学、計測材料設計化学、有機材料設計・合成化学の各分野における深い知識を身につけ、基礎分野と各材料分野を学際的に連携、機能化させ、独創的で幅広い活用をすることができる。
3. 社会に貢献する材料技術者としての技術倫理観、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持つ。

<機械工学専攻>

確かな分析能力と問題解決能力に基づく研究能力を有し、機械工学について、高度な機械を創造・開発するための基礎を理解し、応用する能力を持つ技術者の育成を目的とする。修士課程を通じて、以下の項目を修得し、学位論文の審査に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 機械工学に関する高度な専門知識を有し、実際の問題及び課題において適切に活用できる。
2. 材料機能工学、熱流体工学、知的制御システム工学、機械システム工学の各分野における深い知識を身につけ、連携、協力して課せられた新しい課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる。

3. 社会に貢献する機械技術者としての技術倫理観、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持つ。

<建設システム工学専攻>

確かな分析能力と問題解決能力に基づく研究能力を有し、人類が直面するさまざまな社会的課題に対処し、持続可能な未来社会の構築に貢献する建設技術者を育成する。博士前期課程を通じて、以下の項目を修得し、学位論文の審査に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 社会基盤整備、維持管理、更新に関する基礎知識および専門知識を有し、実際の問題及び課題において適切に応用し活用することができる。
2. 多様な問題に対応する建設技術を、自然災害、環境、整備・維持管理・更新の観点から総合的に扱うことができる。
3. 建築における構造・材料、計画・意匠、および環境・設備に関する高度な専門知識を有し、実際の問題及び課題において適切に活用できる。
4. 自然環境や社会環境に立脚し、未来社会のより良い文化形成に対応する多様な施設やその建設技術を、自然災害、環境、福祉の観点から総合的に扱うことができる。
5. 社会に貢献できる建設技術者として、技術倫理観、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を備え、活動することができる。

工学研究科 博士（工学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得して、博士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つ者に博士の学位を授与する。

1. 研究者、高度専門技術者として、問題発掘能力、解決能力を備え、自立して研究や技術開発ができること。
2. 国際性に深い関心を持ち、外国語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を備えていること。

<電気・材料工学専攻>

自立した研究者、技術者として必要な高度な研究能力と柔軟な応用能力を有し、最先端の電気・材料工学に関する研究や開発に貢献し、革新的な解決策を提供できる人材の育成を目指す。博士課程を通じて、以下の項目を修得し、学位論文の審査に合格した者に博士（工学）の学位を授与する。

1. 専門分野における最先端の研究動向を理解し、新しい知見を創出できる。
2. 課題を自ら発見し、その解決に向けて高度な分析力と創造力を発揮できる。
3. 研究成果の学術的・社会的意義を客観的に判断できる。
4. 研究者・技術者としての高い倫理観と責任感を有する。
5. 研究成果を論理的に記述し、国内外の学会等で的確に発表することができる。

＜生産・建設工学専攻＞

本専攻では、自立した研究者、技術者として必要な高度な研究能力と柔軟な応用能力を有し、最先端の生産・建設工学に関する研究や開発に貢献し、革新的な解決策を自律的に提供できる人材の育成を目指し、博士課程を通じて、以下の項目を修得し、学位論文の審査に合格した者に博士（工学）の学位を授与する。

1. 専門分野における高度な知識と理解力を有する。
2. 生産・建設工学分野の最先端の研究動向を理解し、新しい知見を創出できる。
3. 課題を自ら発見し、その解決に向けて高度な分析力と創造力を発揮できる。
4. 研究成果の学術的・社会的意義を客観的に判断できる。
5. 研究者・技術者としての高い倫理観と責任感を有する。
6. 最新の研究設備を適切に活用し、高度な実験・解析を行うことができる。
7. 研究成果を論理的に記述し、国内外の学会等での確に発表することができる。

経営情報科学研究科 修士（経営情報科学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つ者に修士（経営情報科学）の学位を授与する。

1. ビジネス諸問題に関する経営学及び情報科学の高度な専門知識と論理的思考力に強い関心と興味を持ち、積極的に活用する姿勢が備わっていること。
2. 専門知識、研究成果等を社会に還元することができる、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力が十分に備わっていること。
3. 基礎的な理解に根ざした応用力及び問題解決能力が備わっていること。
4. 問題解決のために、高い協調性と倫理観をもって自ら行動できること。

経営情報科学研究科 博士（経営情報科学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つ者に博士（経営情報科学）の学位を授与する。

1. ビジネス社会の未来を進化・変革するという長期的視点に立ち、学術の発展に寄与し得ること。
2. 研究者、高度専門職業人として高度な研究能力と問題解決能力を備え、自立して研究や問題解決ができること。
3. 国際性に深い関心をもち、外国語によるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を備えていること。